

## VCAT-J 研修会

医療法人水明会佐潟荘 リハビリ部①

平成 29 年 9 月 30 日、帝京大学板橋キャンパスにて VCAT-J 研修会が行われました。当院からは作業療法士の宗村、精神保健福祉士の村山と堀越が参加しました。

VCAT-J とは、「Jcores」というパソコンソフトを用いた就労を意識した「認知機能リハビリテーションプログラム」をいいます。認知機能とは、メタ認知、社会的認知、認知的反応パターン、要素的認知機能らに分類されますが、Jcores が対象となるものはその中の「要素的認知機能（脳の基礎的な力）」とのことです。又、認知機能リハの適応になる診断名は統合失調症圏、感情障害圏、発達障害圏であり、今まで実施された研究の中で統合失調症圏（症状の重さや処方されている薬物量によらず）のデータは他の診断名に比べ、認知機能リハの効果は大きいとされています。しかし、今回の研修ですべての講師の方が言われていたのは、ただ Jcores ソフトを行うのではなく、それと同時に言語プログラムを組み合わせることによって効果が大きくなるということです。

Jcores というパソコンゲームを用いることで、対人関係が苦手な人も実施可、個人の能力に応じてトレーニング内容や時間を設定できる、ゲームでの失敗は集団の中での失敗より傷つきにくい、客観的な評価が出来ること等、メリットが多くあることを学びました。今回の研修で、

Jcores ソフトと組み合わせて行う「言語セッション」のロールプレイを行い、ゲームを行う際のスタッフの介入の仕方（声掛けや着目する点）や言語セッションでの振り返りが重要になってくると感じました。

今後、当院デイケアにて、ご本人の「働きたい」という思いをサポートできるような「就労支援プログラム」を実施したいと考えております。今回学んだことを活かし、来年度の実施に向け、プログラム内容について検討していきたいと思っております。

## VCAT-J 研修会

医療法人水明会佐潟荘 リハビリ部②

Jcores を用いた就労を意識した認知機能リハビリテーションプログラムである VCAT-J の研修会に参加しました。

『Jcores の特徴』では認知機能が障害されることによって仕事、社会生活、自立生活、対人関係に影響が出ることが分かった。また Jcores は認知機能の評価ツールとしてだけでなく、易疲労感や作業耐性等の様々な観点から患者様を評価することが可能であることが分かりました。

『認知機能リハのエビデンス、適応等について』では統合失調症の患者様に対しての効果は認められているようであるが、気分障害や発達障害では研究例も少なく、効果は認められていないとのことであった。認知リハだけでは就労に結び付ける効果は薄く、IPS など就労支援を並行して行くと効果が高いとのことであった。認知リハと IPS を併用した場合と IPS のみで就労支援を行った場合では就労に結び付く患者数に大きな差は見られなかったが、認知リハと IPS を併用した場合は就労期間と総賃金に大きな差が見られたとの事であった。患者様が就労先でより長く働く事が出来るためには必要なリハであると感じた。

『VCAT-J の効果について』ではゲームの難易度を調整したり、認知機能の 6 領域を参加者の特性に合わせてトレーニングできること（個別

化)が出来るところがとても良いと感じた。また Jcores は言語セッションがなければただのゲームであり、言語グループでゲーム結果を振り返ることが重要であるとわかった。その振り返りから日常生活や就労の課題とを結びつける（ブリッジング）をしてあげることがさらに重要であることが分かった。

研修後半ではリーダー、コリーダー、患者に分かれ言語グループのロールプレイをおこなった。ロールプレイではリーダーをさせてもらい、実践に近い形で体験できたことは良い経験になった。